



European Mode

ヨーロピアン・モード



特集
19世紀末
からの
服装改革

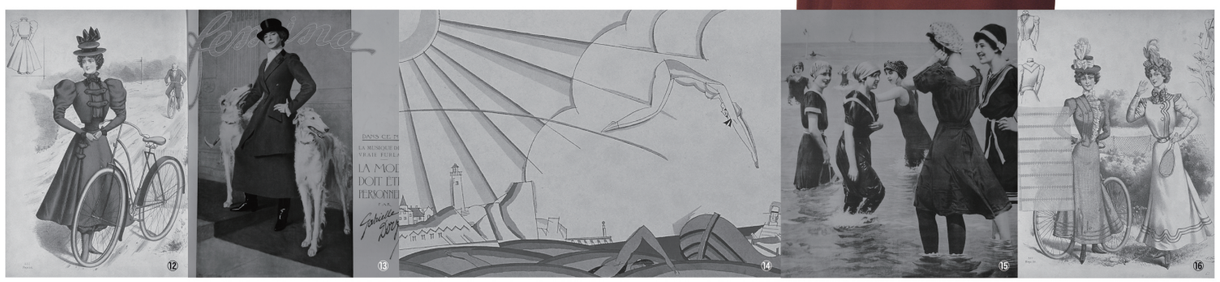
① スーツ　1910−15年頃
② 水着　1900-10年代
③ デイ・ドレス　1920年代後半
④ ビーチ・ウェア　1930年頃
⑤ デイ・ドレス　1910年代　撮影：安田如水（文化出版局）
⑥ サイクリング・スーツ　1910-15年頃
⑦『ラ・モード・イリュストレ』1892年
⑧『アール・グー・ボーテ』1926年
⑨『フェミナ』1908年11月15日
⑩『フェミナ』1912年8月15日
⑪『フェミナ』1912年9月15日
⑫『最新流行衣装;モード画新報』1896-1897年
⑬『フェミナ』1914年3月1日
⑭『スポーツと気晴らし』1914年
⑮『フェミナ』1914年8月1日
⑯『最新流行衣装;モード画新報』1897-1899年
⑦〜⑯文化学園大学図書館蔵

文化学園服飾博物館
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM
https://museum.bunka.ac.jp

2021年 2月18日(木) → 4月22日(木)

開館時間=午前10時→午後4時30分
3月5日、4月16日は午後7時まで開館、入館は閉館の30分前まで
休館日=日曜日・祝日
入館料=一般500円、大高生300円、小中生200円
障がい者とその付添者1名は無料

※混雑時には入館をお待ちいただくこともあります。
※状況により開館日、開館時間等、予定が変更される場合があります。最新の情報はホームページでご確認ください。



European Mode

ヨーロピアン・モード

[特集]19世紀末からの服装改革

ヨーロッパのドレスは、それぞれの時代でスカートの形や丈、袖の大きさなどに流行が見られます。これらの流行は、女性の好みやデザイナーの創造力のみによるものではなく、政治的、経済的、社会的な要因が密接に関係しています。本展では、宮廷が流行を生み出した18世紀のロココ時代から、産業の発達や社会の成熟とともに変化する19世紀を経て、若者や大衆が流行の担い手となった20世紀末まで、ヨーロッパを発信源とする約250年の女性モードの変遷を、その社会背景とともに紹介します。
また特集「19世紀末からの服装改革」では、19世紀末から1930年頃までの女性の装いに起きた変化をみていきます。この頃、移動手段の発達、健康増進のためのスポーツの推奨、女性解放運動の提唱などにより、旅行やスポーツなど屋外での活動やレジャーを楽しむ機会が増え、ドレスにも活動的な要素や機能性が取り入れられるようになりました。変化する社会とともに活動的になりはじめた女性のドレスやスポーツ服などを展示します。



ローブ・ア・ラ・フランセーズ　1770年代



デイ・ドレス　1850年代



イヴニング・ドレス　1901年
ジャン・フィリップ・ウォルト



ドレス　1950年　クリスチャン・ディオール



ジャケット、ドレス　1965年頃　アンドレ・クレージュ



イヴニング・ドレス　1980年代初め
ピエール・カルダン

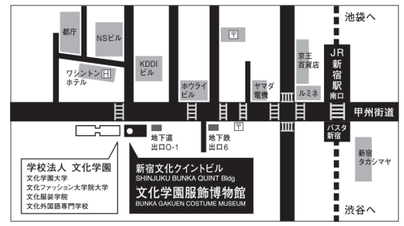
【特別展示】

ダイアナ元皇太子妃のドレス

生誕60周年を記念して3点のドレスを展示します。



イヴニング・ドレス　1988年
ダイアナ元皇太子妃着用　＊寄託資料



文化学園服飾博物館
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM
〒151-8529　東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル
TEL.03-3299-2387 JR・京王線・小田急線新宿駅（南口）より徒歩7分
都営地下鉄新宿線／大江戸線／京王新線新宿駅（新都心口）より徒歩4分 地下道出入口O-1に隣接

学校法人 文化学園
文化学園大学／文化ファッション大学院大学／文化服装学院
文化外国語専門学校／文化出版局／文化学園服飾博物館